

「顔を上げる」



宗教部長
佐々木 哲夫

勉強やアルバイトなど生活の様々な場面において、私たちは一所懸命に努力します。自分の成績や手当が上がるなど、結果を期待してのことです。いわゆる因果応報を承知してのことです。しかし、しばしば、そのような結果にならない事態、不条理と呼ばれる事態と出合うことがあります。

旧約聖書の創世記四章には、ある兄弟の物語が記されています。兄の

もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求めぬ。お前はそれを支配せねばならない。

(創世記 四章七節)

カインは土を耕す者、弟アベルは羊を飼う者でした。時を経て二人は、それぞれに得たものから神に献げ物をします。兄は土の実りを、弟は肥えた初子を献げました。神は、アベルとその献げ物に目を留めるのですが、カインとその献げ物には目を留めませんでした。一体何が起きたのでしょうか。聖書は詳しい説明を記していません。しかし、カインは十分に認識していました。なぜなら、彼のその出来事に激しく怒り、顔を伏せたと描写されているからです。

聖書は、期待していた結果を得られなかった兄カインに焦点を合わせます。神は彼に語りかけます。その場面で描写したのが冒頭に引用した聖書の言葉です。正しいことをしているのであれば、結果の如何に関わらず顔を上げて堂々

としていれば良い、しかし、そうでないならば、罪が待ち伏せている。それを治めよということです。すなわち、一つの不正が次の不正を招くという負の連鎖を、芽のうちに、自らをコントロールすることによって摘み取るようにと諭しているのです。

現在の私たちも、人生において不条理と出合わないことはありません。しかし、期待と異なる結果が現れる度に身を怒りに委ねてしまえば、事態は悪くなるばかりです。そうではなく、自らの心は自らが治めなければならぬということです。「カインの末裔」という表現があることを思うとき、私たちがまた、心を治める余裕をしっかりと持ちたいものであると願います。

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

大学礼拝

WORSHIP SERVICE

2013年

春季特別伝道礼拝特集号



CHAPEL NEWS

第125号

「主イエスの御衣に触れよう」

マルコによる福音書 第5章 21節-43節



西新井教会牧師

林 牧人

を執拗にお探しになる。ヤイロと主イエスを中心に蠢く大群衆の動きが止まる。一瞬の静寂。もはや隠れていることができなくなった女性が震えながら進み出る。「なぜこういう病気になったんだろう、どうして治らないんだろう。そしてそういう思いが募って、しかし、御衣の裾にでも触れれば癒していただけない。一途の望みをかけ、失礼とは存じながらしかし主イエスの後から御衣の裾に触れさせていただいたのです」と、ありのままを全て人の前で語ったのです。

病の癒しも、それから、死からのよみかえりも、単なる回復ではないのです。それがあつたものがそうでないものになってしまったとき、またもとある状態に帰るといふそれだけのことではないのです。ここで本当に永遠の命を与えられたのは、少女ではなくヤイロ自身であり、出血の病を患う女性だったのでないでしようか。人の目が気になる。周りから自分自身を見る。そして、自信がない。自分自身を受けられない。そのままの自分をさらけ出すことができない。そんな自分に必要な、本当の必要を自覚したのではないでしようか。

会堂長の一人でヤイロという名の人が来て、主イエスの足下にひれ伏してしきりに願います。「私の幼い娘が死にそうです。どうかおいでになって手を置いてやってください。そうすれば娘は助かり生きるでしょう」。主はヤイロを一人で家にやることをなさらずに、その名を呼び「共に」出かけて行かれます。しかし、大勢の群衆が二人に付き従ってくる。押し合いへし合い、もう足の踏み場もないほどです。

ヤイロの願いは叶ったかに見えた。ところが唐突に中断される。出血の病を患う女性の登場です。主イエスをめがけて群衆の中に紛れ込み、後ろからその服に触れたのです。その瞬間、女性は癒やされる。主イエスは立ち止まり、服に触れた人物

「お嬢さんは亡くなりました」との知らせ。恐れていた事態が到来してしまつた。「ああ、この先どうなるんだろう。人々の間でどう生きていけばいいんだろう。娘も失ってしまった。人の目。噂。娘が病気になつたときからそうだつた。しかし、もはやそれも全て終わってしまった」。主イエスは、ヤイロの心の内まで察して言われます。「恐れるな」。そうです。主はヤイロと共に行かれたのです。「タリタクム」。そして、少女は立ち上がった。

「お嬢さんは亡くなりました」との知らせ。恐れていた事態が到来してしまつた。「ああ、この先どうなるんだろう。人々の間でどう生きていけばいいんだろう。娘も失ってしまった。人の目。噂。娘が病気になつたときからそうだつた。しかし、もはやそれも全て終わってしまった」。主イエスは、ヤイロの心の内まで察して言われます。「恐れるな」。そうです。主はヤイロと共に行かれたのです。「タリタクム」。そして、少女は立ち上がった。

主イエスは交わりへと招いておられます。信仰とは主に触れることです。高みにいる方を拜むのではないのです。共に傍らに立ち「恐れるな」と語ってくださるお方と触れあつていくことなのです。わたしたちの頑なな心を砕き、まことの命に満たしてください。さる主としっかり触れあつて、今、この地上にしっかりと足をつけて、なお確かな命を内に帯びて、神と人、人と人の交わりの中に生きる。この出来事こそ、主イエス・キリストがもたらしてくださる福音そのものなのです。

病の癒しも、それから、死からのよみかえりも、単なる回復ではないのです。それがあつたものがそうでないものになってしまったとき、またもとある状態に帰るといふそれだけのことではないのです。ここで本当に永遠の命を与えられたのは、少女ではなくヤイロ自身であり、出血の病を患う女性だったのでないでしようか。人の目が気になる。周りから自分自身を見る。そして、自信がない。自分自身を受けられない。そのままの自分をさらけ出すことができない。そんな自分に必要な、本当の必要を自覚したのではないでしようか。

◆林 牧人 氏

一九七二(昭和四十七)年生まれ。
一九九四(平成六)年、東京神学大学神学部卒業。
一九九六(平成八)年、同大学大学院進学研究科博士課程前期組織(歴史)神学専攻修了。
日本基督教団銀座教会伝道師、同教会副牧師、日本基督教団洛北教会主任牧師就任を経て、二〇〇七(平成一九)年、日本基督教団西新井教会主任牧師に就任し現在に至る。

二〇〇九(平成二一)年より日本ウエスレー・メソジスト学会書記役員、二〇二〇(平成二二)年より西新井教会保育園園長、青山学院大学兼任講師、二〇二一(平成二四)年より女学院高等学校講師を務める。

林先生には、五月八日(水)に泉キャンパス、九日(木)に土樋キャンパス(朝)の礼拝をご担当いただきました。

「わたしが傷をいやそう」 エレミヤ書 第30章17節



西千葉教会伝道師

藤野 雄大

人が命を奪われました。たくさん
の人が、捕虜として敵国に連れ去
られていきました。皆、傷つき、耐
え難い苦痛を経験したことでしょう。
深い悲しみと嘆きが、人々の心を
支配したことでしょう。

しかし、皆が将来を絶望してい
る中で、エレミヤは、回復の希望を語
りました。神様は、傷ついた人々を見捨て
ておかれることはなく、かならず傷を癒し
てくれると語ったのです。

「主はこう言われる。お前の切り傷は
いえず、打ち傷は痛む。」(エレミヤ書三
十章十二節)

私たちは、傷を負いながら生きています。
生きることには傷を負うことと言っても良い
かもしれません。人から理解されない苦し
み、大切な者を喪失する悲しみ、病によ
る痛み、私たちは、多くの傷を負いながら
生きています。

それは、エレミヤの時代の人たちと同じ
ところがあります。エレミヤの生きていた
時代は、一言で言えば、非常に困難な時代
でした。エレミヤは、自分の国が敵国の攻
撃によって滅亡するという未曾有の危機を
体験したのです。

戦争によって国土は荒廃し、たくさんの

私と共にいてくださる方だと知ることがで
きました。

イエス・キリストも、このように言われ
ました。「悲しむ人々は、幸いである。そ
の人たちは慰められる。」(マタイによる
福音書五章四節)。あの有名な「山上の
説教」の一節です。この御言葉は、エレミ
ヤ書の御言葉と重なるものがあります。

神様は、傷ついた人を決して見捨てておか
れることはありません。聖書は、人生の
岐路に立たされるたびに、最もふさわしい
御言葉を与えてくれます。心を開いて聖
書の御言葉に聞かなくては、傷を負った人は、
癒されるでしょう。悲しみを負った人は、
いつの日か、必ず慰められるでしょう。

今、日本全体が傷ついております。困難
な時代を迎えています。こういう時代には、
人は傷つくことを恐れて消極的になりがち
です。しかし、皆様には聖書が与えられて
います。人を悲しみの底から引き上げてく
ださる神の御言葉を聞くことができます。
だから、皆様には、傷つくことを恐れないで、
困難に立ち向かって欲しいと思います。

「慰めの書」と言われることがあります。が、
その名の通り、非常に慰めに満ちた言葉が
書き記されています。そしてこの「慰めの
書」は、エレミヤの時代の人たちだけの慰
めではありません。私自身も、かつて深い悲
しみの中で、心に傷を負った時、この言葉
によって癒される経験をしました。私は、
悲しみの中で聖書の御言葉に触れるという
経験を通して、主なる神が、今も生きて、

◆藤野 雄大 氏

一九八三(昭和五十八)年生まれ。
二〇〇六(平成一十八)年國學
院大学新道文化学部新道文化学科
卒業後、民間企業勤務。

二〇一〇(平成二十二)年東京神
学大学神学部卒業。

二〇二二(平成三十四)年同大学
大学院前期課程修了後、後期課程
入学。

同年より日本基督教団西千葉教
会担任教師(伝道師)に就任し、
現在に至る。

藤野先生には、五月八日(水)
に多賀城キャンパス、土樋キャン
パス(夜)の礼拝をご担当いただき
ました。



各キャンパスのメッセージ

Izumi

泉キャンパス
大学宗教主任

村上 みか



この四月以来、泉キャンパスの礼拝では、学生の皆さんたちの讃美歌の歌声が響き、朗らかな雰囲気の中に礼拝のときをもつことができ、たいへん嬉しく思っています。加えて、礼拝の始まりには私語を慎み、心を静かに臨んでいただければ、さらに良い礼拝になるでしょう。どうぞこのことを心に留めてください。

新学期も二か月が過ぎ、調子も整ってきた頃と思いますが、特に一年生の皆さんは大学生活に馴染めなかったり、体調を崩したり、あるいはこれからのことについて不安をもつこともあるでしょう。大きなキャンパスの中で居場所を見つけれず、心が彷徨うこともあるかもしれませんが、お互いに周囲の状況に配慮し、何か困ったことがあれば誰かが手を差し伸べて、ともに支え合いながら良き学びのときがもてるよう、願っています。

Tagajo

多賀城キャンパス
大学宗教主任

原田 浩司



二〇二三年も新緑の季節を迎え、多賀城キャンパスの礼拝堂の前に植えられている銀杏や紅葉の木々が鮮やかな緑の葉を茂らせている。「いのち」の成長を感じさせる季節だ。多賀城キャンパスでは藤野雄大伝道師を迎えて春の特別伝道礼拝が行われた。学生時代の失恋経験なども交えて、「気休めの言葉」ではない力のある「慰めの言葉」の由来を学生たちに語っていただいた。

今回の伝道礼拝も毎日の大学礼拝も単なる行事ではない。学生諸君が力ある言葉と出会い、そうして出会った数々の言葉を自らの生活と人生の糧とするため、東北学院大学が二七年間守り続けてきた大切な機会である。学生は東北学院大学で技術や知識を得るにとどまらず、よりよく生きる教養人としての素養を身に付けていただきたい。そして大学礼拝は学生諸君の成長を祈り続けて行われていることを覚えていて欲しい。

Tsuchitoi

土樋キャンパス
大学宗教主任

原口 尚彰



泉キャンパスは、4年間の学びの基礎を作る場所であり、1、2年の学生が一般教養科目と専門科目の基礎を学びます。これに対して土樋キャンパスでは、文科系4学部の3、4年生が専門科目を本格的に学ぶと同時に、社会人となる準備をします。学生の皆さんは、専門の学びや、クラブ活動や、アルバイトや、就職活動でそれぞれ忙しい時を過ごしていると思います。そのような中で、毎朝の礼拝の時間は、どのような意味を持っているのでしょうか？礼拝の時間の間は聖なる中断の時であり、本学の全キャンパスの業務はすべて止まっています。それは、キャンパスの全員が、勉強や仕事や活動から解放され、無心になれる時となっています。礼拝は、共に聖書の言葉に耳を傾け、共に祈り、共に讃美を捧げ、奏楽に耳を傾けることによって、心をリフレッシュ出来る貴重な場所です。キャンパスにおける魂のオアシスとして活用下さい。

◆サマー・カレッジ案内

豊かな自然の中で聖書のメッセージに学びながら学生・教職員相互の交わりを深める宗教部主催による恒例のサマー・カレッジは「宮沢賢治について学ぶ」を主題に行います。今年度も以下の様々なプログラムを用意していますので、皆様ふるってご参加ください。

- 日時 八月五日(月)～八月七日(水)
- 会場 宮城蔵王ロイヤルホテル
- 主なプログラム 開会礼拝、主題講演、御釜見学、ソフトボール、祈りの夕べ、閉会礼拝
- 対象 本学の学生・教職員
- 参加費 八〇〇〇円
- 締切日 七月二十日(土)
- お早めにお申し込み下さい。(申し込み先 土樋キャンパス…本館二階宗教事務課 泉キャンパス…一号館二階庶務係 多賀城キャンパス…一号館二階庶務係 (参加費を添えてお申し込み下さい。))

編集後記

春季特別伝道礼拝の特集号です。大勢の学生が貴重なお話を聴くことができましたが、出席できなかった学生は、この紙面をお読みください。各キャンパスの大学礼拝は先生方が心をこめて行っています。皆さんも引き続き良く出席するように努めましょう。(N)

二〇二三年六月 東北学院大学宗教部
千九八〇一八五二
仙台市青葉区土樋一丁目三番一号